

— シリーズ —  
匠  
の  
コラボレーション

第 31 回

SPECIAL ISSUE

BWJドクター鼎談

原 かや 医師 × 吉田 由佳 医師 × Lim Jong hak 医師

5月に開催されたビューティーワールドジャパン 2015ではARTISTIC グループブースにはLim Jong hak 名誉顧問医師をはじめ連日4A 一般社団法人アジアアンチエイジング協会の名誉顧問医師たちが大集結しました。今月は、リフトアップ美容で有名な吉田由佳名誉顧問医師と、東京駅前で開催した原かや医師をお迎えし、Lim Jong hak 医師との鼎談の様子をお伝えします。



# エステは医療から離れてはいけな 施術者自らの安全も考え勉強していこう

## 保険から自由診療へと転換

本誌 吉田先生と原先生をご紹介いただけますか？

Lim 二人とも形成外科・皮膚科のクリニックを開業されていて、主に美容外科をされています。これからの日本の美容外科を導いていかれる先生たちです。

本誌 ご専門は？

Lim 吉田先生は顔面の糸をつかったリフティング。それと注入するリフティングが得意です。それとリジュビネーション（若返り治療）を専門にやられている方で、本誌 開業されてからはどのくらいですか？  
吉田 開業してから10年経ちました。7、8年は保険診療をメインにしていたので、ほとんどを形成外科として頑張ってきたんです。ここ3年くらいは美容外科を集中的に勉強して、Lim先生にもご教授いただき、ある程度できるようになってきたという現状で、保険診療から自由診療に転換しているタイミングです。奈良は形成外科という標榜がないエリアでして、皮膚科・皮膚外科と呼んでいます。かなりコンサバ（Conservative 保守的）な地域なので、美容外科と言ってしまうとコンサバの方にアプローチすることにごく難渋することが多々あります。コンサバな領域の方でもほとんど一般的な方でも、かんたんな糸くらい入れて、リフトアップぐらいした

## レーザー専門医がみた エステの問題点

本誌 原先生は？

Lim 大学病院で形成外科医として長く勤務されたうえで、美容の経験も豊富な方です。  
原 今はヒアルロン酸やファイラーとよばれる注入材の一種であるレディエッセなど、プチ整形と言われるものの注入が多いですね。本誌 ヒアルロン酸で形成もしていますか？  
原 そうですね、鼻を高くしたり。最近ではヒアルロン酸の若返り治療もあって、解剖学的にベースがある形成外科医ですと、鞅帯のゆるみのあるところにアプローチして顔全体をリフトアップするとか、新しい注入法もあります。私は大学でレーザーを長く専門にやっていたので、レーザー専門医という数少ない指導医資格も持っています。レーザーはお肌の表面の治療はなんでも、色やくぼみ、たるみなど全般的に Non Invasive（非侵襲）な治療としてレーザーは未来があると思うし、ニーズにあった治療ができると思います。私はまだ新規開業なのでレーザーの機械は高くて揃

えられないのですが、嘱託医としても働いているのでそこ連携していろいろな治療ができます。

本誌 エステで安全な光を使って美顔をするのも流行っていますが、過去には光脱毛医師法違反などの問題も起きています。馴染みがある事故もあるし、エステ業界も指導者を求めているのです。レーザーの専門医の資格をお持ちとのこと、ぜひ手助けをしていただければと思いますがいかがですか？

原 レーザーというモノ自体が施術者の目に障害を与えたり、取り扱いに注意しないといけない部分が多いんですよ。患者様の安全を考えるのは第一ですが、ご自身の目の安全も考えて欲しいと思います。エステティシャンの方は防御メガネもかけずに施術される方もいらっしゃいますね。光脱毛だから気を抜いているのかと思いますが、レーザーでの脱毛の場合には、ご自身の身の安全を確保するためにも安全性について勉強していただくことが大事だと思います。私が所属する日本レーザー学会でも、レーザー治療師の資格を取ることができず、レーザー専門医のいる施設で何年か勉強すると資格も取れるし、安全のためにもレーザーについてしっかり勉強して、どういったところが危ないのか、施術の際に注意しなければならぬ点はどこかなど、取り扱いについて学んでいただけたらと思います。

## 危うさを警鐘するより 協業の道

本誌 吉田先生からご覧になってエステでの美顔等でレーザーやプチ整形的なアプローチはどうお考えですか？ 危ういところがありますか？

吉田 危ういと考えたことはありません。むしろコラボレーションしてもっといい方向に行くのではという期待値のほうが高い。私どもはドクターなのでお顔に糸を入れた針を刺すこともできるが、エステティク

のハンドマッサージについてはエステティシャンの方のほうが詳しいし、機械によってはエステティシャンの方が上手だったりもするでしょう。コラボレーションでより美容を高める位置づけが可能だと思います。実際に機器やハンドを使った施術は、技術や職人のようなところもあるので、エステティシャンの知識と経験を教えてほしいです。私たちは施術としてよりダイレクトなことがありますが、キープするためには技術と機器は必要だと感じています。クリニックでする場合もありますが、多くはエステティシャンの手に委ねられていると思います。クリニックよりエステの方が裾野は広いし、多くの方がいらっしゃるエステでいかにそうした技術を高めたり、安全かつ安心なことと続くと思うので、そこをみんなでき共有できればいいと思います。

## 協業の仕組みづくりが課題

本誌 エステは問題が多いが、韓国はエステと医療とのコラボレーションが先進的にうまくいっていると聞きます。次のステップとして日本のエステはどうしていくべきだと思いますか？

Lim エステと医療は離れてはいけません。一緒につながらないといけないので、エステの学会でも美容医療の学会でもコラボレーションしながら、もし医療の学会があればそのなかにエステのパートをつかってエステティシャンの教育や管理を医師がきちんとして基礎をつけてあげればいいと思う。皮膚の構造、生理機能、解剖などを知識として持てる方がいいと思う。ただ、自分ができるものではないもの、安全なものど安全じゃないものがあるから見極めが大切になる。もし不幸にも問題が起きれば、クリニックに紹介して処置してもらえないようなシステムをつくってほしい。4Aアジアアンチエイジング協会はそれを目的にしているんです。この方向性が大事だと思っています。本誌 ありがとうございます。



### Dr.Lim Jong hak



カイロスエステティッククリニック院長  
韓国生まれ。大阪医科大学卒業。同大学形成外科に入局。帰国後は2000人を擁する韓国最大の美容外科学会の創設者として韓国美容外科術をアジアをけん引する存在に成長させた功労者。2011年の大韓民医健康学会で名医の称号授与。医学博士。日韓中の医師免許を取得。愛媛医大外来教授 / 韓国美容外科学会会長 / 第2回東洋美容外科国際学術大会会長 / 第3回国際眼瞼整形シンポジウム会長 / 株式会社 ARTISTIC&Co. 顧問医師 / 4A一般社団法人アジアアンチエイジング協会名誉顧問医師

### 原 かや



Kaya Hara  
八重洲形成外科・美容皮膚科院長  
形成外科・レーザー専門医  
東京女子医科大学医学部卒業、東京女子医科大学形成外科学教室入局、都立多摩総合医療センター勤務、スタンフォード大学形成外科で研修、東京女子医科大学東医療センター勤務、東京女子医科大学形成外科学教室助教、今春、八重洲形成外科・美容皮膚科を開設  
所属学会・日本形成外科学会、国際形成外科学会、日本皮膚科学会、日本美容外科学会、4A一般社団法人アジアアンチエイジング協会名誉顧問医師

### 吉田 由佳



Yuka Yoshida  
医療法人敬愛会 はもり皮膚科理事  
関西医大卒、京都大学形成外科学教室入局後、京都大学附属病院、大阪赤十字病院、済生会中津病院、長浜赤十字病院を経て現在、医療法人敬愛会理事長。  
形成外科・美容外科・皮膚科・美容皮膚科専門医  
所属学会・日本形成外科学会、日本美容外科学会、日本美容皮膚科学会、日本小児皮膚科学会、日本抗加齢医学会、4A一般社団法人アジアアンチエイジング協会名誉顧問医師